

「胃癌手術における術前 CT 画像の活用方法に関する探索的研究」

公開文書

胃癌の治療において進行度を評価したり、治療方法を選択することを目的として一般的に CT 検査が行われます。手術前に解剖の情報を把握しておくことは手術中の出血の減少につながるなどのメリットの報告があります。

現在、当教室では術前と術中の外科医間の意思疎通に関する研究を行なっています。今回、術前、術中の外科医間の意思疎通向上のため、CT 画像を加工し、他のカルテ情報とともに活用することを目的としています。

本研究では 2018 年 10 月以降に胃癌手術を行った方、もしくはこれから手術を行う予定の方を対象とします。

CT 検査は胃癌手術の前に禁忌となる方を除き全例で行われているのでこの研究により新たに追加される侵襲はありません。従来の CT の利用方法以上に有効に解剖学的情報を利用することができるになれば、より精度が高く安全な手術を行うことができるようになると思います。

CT 画像データの利用は匿名化の後にいき、患者さんの個人情報を公開する事はありません。また個人を特定できる情報を施設外に提供することはありません。研究期間は倫理委員会承認後から 2020 年 12 月 31 日までです。この研究の主研究機関は京都大学消化管外科であり、当院の倫理審査委員会にて審査を受け、病院長の許可を受けて行っています。研究計画書および研究の方法についての問い合わせは、個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲においては可能です。

お問い合わせは京都大学消化管外科医局：075-751-3111(代)、研究担当：住井、もしくは京都大学医学部附属病院 相談支援センター：075-751-4899、
(E-mail) ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp をお願いします。

【研究機関名及び研究責任者氏名】

主任研究機関 京都大学医学部附属病院 消化管外科

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54

Tel：075-751-3650

Fax：075-751-3219

研究責任者 坂井義治